

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：12603

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K21136

研究課題名（和文）20世紀の南アジア・イスラーム思想の再構築に向けた基礎的研究

研究課題名（英文）A Preliminary Study of the Reconstruction of South Asian Islam and its Thought in the Twentieth Century

研究代表者

須永 恵美子（SUNAGA, Emiko）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・特別研究員（RPD）

研究者番号：00722365

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：マウドゥーディーを含む19世紀後半から20世紀前半に活躍した南アジアのムスリム知識人が、現在のパキスタンにおいてどのように語られていたのかを、現地で収集した資料から明らかにした。その結果、ジャマアテ・イスラミーやデーオバンド学院といったイスラーム系の政治組織・教育組織はほとんど触れられることがなく、そのかわりにムスリム連盟やジンナーといった政治家らについての評価が高かったことを指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年は、イスラームに対する国際社会の注目度が増しているにもかかわらず、南アジアを対象としたイスラーム研究は不足している。特に、ムスリム国家における言語社会を捉える研究や、パキスタンのイスラームを正面から扱う研究は、我が国は言うまでもなく、国際的にも蓄積が少ない。本研究はこの研究史上の空白を積極的に埋めるとともに、本研究はこの研究史上の空白を積極的に埋めるとともに、より広くイスラームの地域間比較に視座を提供するものである。

研究成果の概要（英文）：This project revealed how Muslim intellectuals, such as Maulana Maududi, were described in the present Pakistan, who lived in South Asia in the latter half of the 19th century and the first half of the 20th century. The study results showed that the Muslim League or politicians like Quaid-e Azam Jinnah were more highly valued than political and educational organizations like Jamaat-e Islami or Deoband Schools according to local media.

研究分野：地域研究

キーワード：パキスタン 南アジア イスラーム ムスリム 思想

## 1. 研究開始当初の背景

20 世紀の重要な思想家・著述家サイド・アブルアーラー・マウドゥーディー (Saiyid Abū al-A`lāMaudūdī, 1903-1979) は、南インドに生まれ育ちながらウルドゥー語を母語とし、10 代から雑誌編集や執筆を生業としてきた。また、宗教政党イスラーム党 (ジャマーアテ・イスラーミー) を設立し、政治家として国内外で活動した人物である。現代のジャマーアテ・イスラーミーは、国政に参加するだけでなく、災害時の緊急支援や教育、医療、労働団体の組織など、草の根的な慈善団体としても活躍している。マウドゥーディーの評価は、宗教家だけでなく、政治家や、著述家としての多面的な側面から記述することが肝要であり、本研究では、150 冊以上に及ぶ彼の著作に着目する。彼の活動の実態や思想は、イスラーム党や、関連機関から発行されている多くの書籍・雑誌から読み取ることが可能である。サイド・マウドゥーディーをめぐる先行研究として、代表的なものは 1980 年代のサイド・ワリー・ナスルのイスラーム復興とマウドゥーディーの思想的牽引、フルシード・アフマドのイスラーム経済論への影響 (1980)、近年ではイスラームの生命観について分析したヤン・ピーター (2013) などがあげられる。他にも、パキスタン国内ではアサド・ギーラーニらがウルドゥー語でマウドゥーディーの思想について、ジェンダーや教育といったテーマごとに切り取った著作を多く記しているが、これらは研究というよりもマウドゥーディーの論文の再編集であり、多くが礼賛にとどまっている。また、ジャクソン・ロイ (2012) やアミナ・ジャマル (2014) など、マウドゥーディーの創設したイスラーム党についての国政への参加や政教関係を記した研究は多い。この宗教政党は、パキスタン国内の宗教復興をけん引するだけでなく、政治政党としての影響力も有し、カシュミール紛争や印パ戦争、ロシアのアフガニスタン進行、国内のテロ事件などにも意見をしてきた。そして、この政党の支持者は、パキスタン国内にとどまらず、世界規模での支援団体を有していることがこれまでの調査で明らかになっている。

申請者はこれまで、イスラーム復興で共有される言説の例として、思想家サイド・アブル・アル=アラー・マウドゥーディー (1988.d) のクルアーン解釈書『クルアーンの理解 *Tafhīm al-Qur`ān*』(1972) を思想と言語使用の両面から分析してきた。ウルドゥー語の構成要素を考える上で、宗教言語を言語分析の対象に取り上げた点が意義深く、ウルドゥー語の成立にかかわるアラビア語、ペルシア語からの借用語の実態を明らかにすることができた。マウドゥーディーの思想は、南アジア・ムスリムにおける集大成としての位置づけにあり、現代まで多大な影響力を持っている人物である。この、宗教言語の分析により、アラビア語の意味がそのまま借用されていると考えられてきた聖典クルアーンに出てくる語彙も、ウルドゥー語に翻訳される過程でその意味が多重的になり、新たな解釈と結びついていることが明らかにされた。ウルドゥー語でイスラームを語ることが、南アジアのムスリムにとって宗教活動をより身近にさせ、1980 年代以降に勃興するイスラーム復興の引き金となったことを示した。これらの研究の過程で、マウドゥーディーについての政治思想、聖戦論などの各論に関する分析は各種あるものの、マウドゥーディーという人物に関する著作や経歴、その言説の変遷といった基礎的な研究が抜け落ちていることが明らかになった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、近現代イスラーム世界、とりわけ南アジアにおけるイスラーム復興の理

解のため、同地のイスラーム思想家に関する包括的な研究基盤をつくり上げることにある。特に 20 世紀を代表する宗教家サイイド・アブルアアラー・マウドゥーディーに着目し、彼を核とした南アジアのイスラーム復興の諸勢力の相関性を明らかにする。マウドゥーディーの思想は、広くイスラーム世界各地でその影響が確認されており、現代のイスラーム復興の礎となってきた。本研究では、彼の多数の著作や講演録、雑誌記事、パンフレット等を収集・分類し、彼の活動と思想を南アジアの宗教政治運動の中に位置づけることによって、南アジア・イスラーム研究の基盤構築を目指す。

### 3．研究の方法

海外で収集した資料原典の文献購読と、フィールドワークを融合した地域研究の手法で研究を遂行する。これまでパキスタン、イギリスにおける滞在調査を通じてかなりの資料を収集してきた。それでもなお、マウドゥーディーが 1947 年のパキスタン移住以前にインドで発行した雑誌や新聞記事、講演の記録などが欠如している。資料の形態としては、雑誌論文や新聞に加え、雑誌で受けたインタビュー、単著、共著、編纂された本、政府からの検閲で書き換えられた書籍の初版、彼の支持者が編纂した本、また彼の死後に出版された研究書などがあげられる。『クルアーンの解説者』には 900 篇を超えるマウドゥーディーの投稿論文が発表されたと見積もられている。今年度は、それぞれの資料の日本国内での所在の有無、国外での保存状況を整理し、電子化されているもの、国内の図書館に所蔵されているものを収集する。特に、京都大学附属図書館大型コレクション・アキール文庫の所蔵資料が有望とみられる。資料収集は、マウドゥーディー研究の最も基本となる必須の過程である。資料収集においては積極的に電子データでの収集を行い、将来的な保存や公開に向けた整理を同時進行する。

収集した資料をもとに、マウドゥーディーの書物のコンテンツの整理と分類に取り組み、マウドゥーディーの政治思想の変遷と書物を関連付ける。これまでは、マウドゥーディーの政治思想は固定的なものとして評価されており、年代による移り変わりが公認されていなかった。特にパキスタン国内では、建国以前に独立運動を否定した記述が検閲を受けて、第 2 版以降削除されたケースが確認されている。また、1930 年代に発表されたジハード論は、現在でもマウドゥーディーの代表的な宗教思想として引用されているが、これを上書きするような内容が後年に出ていることは広く知られていない。これは、マウドゥーディーが純粋な学者ではなく、政党を率いる政治家であり、また宗教指導者として半ば神聖化されていることの弊害である。これまで黙殺されてきたマウドゥーディーの思想の変遷を著作・論文から明らかにし、主題年表と照らしあわせ、各時代の諸活動と思想の移り変わりを同定する。この成果は国内では日本南アジア学会、国外ではブルネイのブルネイ・ダルサラーム大学にて公表する。主題年表を和文のブックレットとして出版する。口頭発表を踏まえて明らかになった問題などを補正しつつ、編集作業を行い、年内の出版を目指す。さらにフィールド調査としてパキスタンに渡航し、これまでの研究から不足が明らかになった論文や著作の収集を行う。

### 4．研究成果

初年度は、研究成果の発信を積極的に行った。海外では、8月にイギリスのダラム大学で研究発表を行った。これは、南アジアの宗教家マウドゥーディーがどのように利子の禁止についての

論稿を発表していたのかを明らかにするものであった。イスラーム経済を専門とする同大学ビジネススクールの教授、研究者らから、有益なコメントを多数いただいた。さらに、この発表に前後して訪問したレスター・マークフィールド高等教育研究所では、南アジアを専門とする多数の教員・研究者と情報交換をした。同研究所に隣接するイスラミック・ファウンデーションも訪問し、国内の改宗ムスリムのサポートを行うニューイスラームプロジェクトでのインタビューを行った。国内では、5月に日本中東学会年次大会で、9月に日本南アジア学会全国大会で研究発表を行った。出版物の成果としては、パキスタン・カラチから出版された英語・ウルドゥー語の書籍に英語論文を寄稿した。日本語では東京外国語大学南アジア研究センターよりワーキングペーパーを刊行した。計画していた資料収集については、日本国内で有数のウルドゥー語コレクションを誇る、京都大学附属図書館のアーキル・コレクションにて、マウドゥーディーが1955年出版のウルドゥー語の経済書籍『人間の経済的問題およびそのイスラーム的解決』を入手した。これは、近代イスラーム経済の思想的源泉と言われる一冊で、国内・海外の主要図書館に所蔵されている同書のなかでも、最も版の古いものである。

2年目には、昨年度までの実績をもとに、マウドゥーディーの主題年表を作成に取り組んだ。主に参照したのは新聞記事である。また、彼の死後に出版された2巻本の回想録 Tazkira-e Maududi (『マウドゥーディー伝』)は、支持者等によって編纂されたものであるものの、事実関係の誤認などが確認されたため、参照するに留めた。新たにマウドゥーディーの人生を一覧するものとして、彼とイスラーム党の活動を主軸に、マウドゥーディーの論文や著作、国内外での報道状況を年表に落としこんでいるところである。また、東南アジアにおけるウルドゥー語の広がり現状を調べるため、インドネシア・ジャカルタでの概況調査を行った。1980年代に流行した南アジア発の思想を残す翻訳本は、大学の図書館等には所蔵されていたものの、現在改訂・再販された様子はなく、すでに他の思想家らに関心が移っていることが確認された。ごく僅かではあるが、プサントレンにおいてマウドゥーディーの著作を読んでいる若い学生らにも面会ができ、意見の交換を行った。日本中東学会の年次大会では、昨年度までの成果を発表し、資料の扱いの観点から批判的・建設的な意見を多数いただいた。さらに、マレーシア・クアラルンプールでは、東南アジアにおけるウルドゥー語書籍の出版状況について、翻訳と解釈書の普及状況を発表し、マレー語他現地言語を専門とする研究者からフィードバックをいただいた。パキスタンのカラチから出版されている学術雑誌『テヘシール』の創刊号に、英文でウルドゥー語の聖典クラーンの翻訳に関する論文を発表した。

3年目は、マウドゥーディーの組織した政治団体ジャマアテ・イスラミーと、彼の活躍した20世紀前半のムスリム知識人に着目した。前者としては、エジプトのムスリム同胞団の影響からみるジャマアテ・イスラミーの研究の可能性に着目し、従来思想的なつながりが指摘されてきた両団体が、団体としての交流にさほど重きをおいてこなかったことを指摘した。後者としては、マウドゥーディーを含む19世紀後半から20世紀前半に活躍したムスリム知識人が、現在のパキスタンにおいてどのように語られていたのかを、学校教科書のテキスト分析から明らかにした。その結果、ジャマアテ・イスラミーやデーオバンド学院といったイスラーム系の政治組織・教育組織はほとんど触れられることがなく、そのかわりにムスリム連盟やジンナーといった政治家らについての評価が高かったことを指摘した。

最終年度は、宗教ネットワークに乗って人が移動することに焦点をあて、資料収集・調査を行った。特に、1950年代のマッカへの巡礼に関する資料について、20世紀前半のウルドゥー語で書かれた旅行記などを集中的に収集・読解した。当時、空路が整備されていない中で、南アジアからマッカまで600日以上かけての滞在に関する詳しい記録を分析し、国際会議で発表した。8

月、パキスタン・ラホール市で、パンジャーブ大学オリエンタルカレッジのウルドゥー語学部及び附属図書館にて、20世紀初頭の旅行記の収集を行った。また、私立ラホール経営大学を訪問し、イスラミック・スタディーズの教員と共同研究についての意見交換を行った。同国カラチでは、カラチ大学ウルドゥー文学部図書室及び本部図書館にて資料収集を行った。カラチ大学元ウルドゥー語学部長モイヌッディーン・アキール教授のご推薦により、市内のイスラーム・リサーチ・アカデミーにて、ウルドゥー語による研究発表を行う機会も頂き、さらにその内容が新聞社から取材を受けた。カラチ市郊外にある市立ハムダルド大学の教員らとも意見交流する機会があり、高等教育におけるイスラーム教育の在り方と、初頭・中等教育における言語問題について意見交換を行った。アウトプットとしては、国際会議第11回国際宗教観光・巡礼国際会議に参加し、英語での口頭発表をした。研究発表は歴史部会に配置され、先述の宗教ネットワークについて、1950年代後半にパキスタンにおいてハッジ巡礼がどのように共有されていたのかを示すため、同年代の宗教家の記した巡礼記についてまとめた。ヨーロッパを中心に各地から集まった参加者とも交流することができ、特に宗教学とは異なる観光学分野のネットワークを拡張できたことが有意義であった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 SAITO A. SUNAGA E. and YANAGIYA A	4. 巻 31
2. 論文標題 A Catalogue of the Collection of Islamic Books from Myanmar at Sophia University	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 SIAS Working Paper Series	6. 最初と最後の頁 37-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://digital-archives.sophia.ac.jp/repository/view/repository/20200316019">https://digital-archives.sophia.ac.jp/repository/view/repository/20200316019</a>	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 須永恵美子	4. 巻 267
2. 論文標題 パキスタンの交通インフラ革命：タクシー配車アプリ・カーリムで手に入れた移動の自由	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 パーキスターン	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 須永恵美子	4. 巻 262
2. 論文標題 『好きなものをなんでも着る』時代の幕開け	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 パーキスターン	6. 最初と最後の頁 28-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 SUNAGA Emiko	4. 巻 1
2. 論文標題 Learn in Urdu, Write in the Vernaculars: Translating Process of Commentary of Holy Quran in South Asia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Tahseel	6. 最初と最後の頁 109-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 須永恵美子	4. 巻 259
2. 論文標題 既製服の浸透とファッション・デザイナーの隆盛	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 パーキスターン	6. 最初と最後の頁 14-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須永恵美子	4. 巻 260
2. 論文標題 新しいランウェイを歩くパキスタンの女性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 パーキスターン	6. 最初と最後の頁 16-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須永恵美子	4. 巻 10
2. 論文標題 川満直樹『パキスタン財閥のファミリービジネス 後発国における工業化の発展動力』ミネルヴァ書房、2017年	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 イスラーム地域研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SUNAGA Emiko	4. 巻 -
2. 論文標題 The Process of Development of the Early Economical Thought of Saiyid A. A. Maududi: The Origin and the Evolution of His Publications	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 J. A. Khursheed and K. Amin eds, History, Literature and Scholarly Perspectives South and West Asian Context. Karachi: Islamic Research Academy	6. 最初と最後の頁 147-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 須永恵美子	4. 巻 2
2. 論文標題 マウラーナー・マウドゥーディーの東パキスタン/バングラデシュ史観	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 人間文化研究機構地域研究推進事業、東京外国語大学南アジア研究リサーチペーパー	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 須永恵美子	4. 巻 9
2. 論文標題 書籍紹介 山下里香『在日パキスタン人児童の多言語使用 - コードスイッチングとスタイルシフトの研究』ひつじ書房、2016年	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 イスラーム地域研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 110-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 1件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 SUNAGA Emiko
2. 発表標題 A Pilgrimage to Mecca in the 1950s: The Urdu Travelogue Literature of Maulana Maududi
3. 学会等名 11th Annual International Religious Tourism and Pilgrimage Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SUNAGA Emiko
2. 発表標題 Japan men Islam, Jamaat-e Islami aur Abul Ala Maududi par Tehqiqi Mataala (日本におけるイスラーム、ジャマアテ・イスラミー、マウドゥーディーの研究)
3. 学会等名 Lecture Series of Islamic Research Academy Karachi (招待講演)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 須永恵美子
2. 発表標題 ムスリム市民をつくる - パキスタンの学校教科書から
3. 学会等名 NIHU現代南アジア地域研究東京大学拠点2018年度第2回TINDASセミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 須永恵美子
2. 発表標題 現代パキスタンの学校教育における近代化運動とムスリム知識人
3. 学会等名 上智大学グローバル・スタディーズ研究科「南アジアのムスリム知識層による社会宗教改革とその展開:教育活動と広域的ネットワークに着目して」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 須永恵美子
2. 発表標題 ムスリム同胞団の影響からみるジャマーアテ・イスラミーの研究の可能性
3. 学会等名 NIHU現代中東地域研究上智大学拠点政治社会学班「ムスリム同胞団の国際的影響に関する研究会」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 SUNAGA EMIKO
2. 発表標題 The Vision of an Islamic Democracy and the Jamaat-e Islami of Pakistan
3. 学会等名 Workshop of Political Sociology Research Group at Sophia University, The Political Concepts of Islamic Movements and the Realities of Modern Muslim States
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 SUNAGA Emiko
2. 発表標題 Reconsideration of the Meaning of Urdu-Vernacular Kitab in Southeast Asia
3. 学会等名 8th International Symposium on Islam, Civilization and Science (ISICAS 2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 須永恵美子
2. 発表標題 『人間の経済的問題とそのイスラーム的解決策』の出版に関する一考察 南アジアにおける近代イスラーム経済学の始まりと初期の思想
3. 学会等名 日本中東学会第33回年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 須永恵美子
2. 発表標題 インドから東南アジアへ 宗教団体の出版戦略と伝播するイスラーム思想
3. 学会等名 日本南アジア学会第30回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 須永恵美子
2. 発表標題 美しさの価値観を刷新するパキスタンのファッション産業
3. 学会等名 大東文化大学大学院外国語学研究科日本語文化学専攻主催第9回「東西文化の融合」国際シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 SUNAGA Emiko
2. 発表標題 The Doctrines of Economic Ethics of Abu al-A'la Maududi in the Early Journal Tarjuman al-Qur'an
3. 学会等名 Durham University, Kyoto University 10th International Workshop in Islamic Economics and Finance. Durham University (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 須永恵美子
2. 発表標題 マウドゥーディーの経済観 雑誌『クルアーンの解釈者』に寄せた論稿を中心に
3. 学会等名 日本中東学会第32回年次大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 須永恵美子
2. 発表標題 ベンガル民族主義運動とパキスタンの建国理念：マウドゥーディーの見た東パキスタン
3. 学会等名 日本南アジア学会第29回全国大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----